デコ活
くらしの中のエコろがけ

＜イベントレポート＞

～「デコ活」の新たなステージを象徴するコンセプト「らくデコ活」を発表～

環境省「デコ活２ndステージ」発表会を開催！

環境省×Ｊリーグ「服のらくデコ活　クラブ対抗衣類回収バトル」が10月にスタート

ハロー！プロジェクト企画ユニット「DECA!BEAT」が「断熱ナビゲーター」に就任

Ｊリーグ「未来の世代がサッカーを楽しめる環境を守りたい」
DECA!BEAT「“エコなビート”を届けていきたい」

環境省では、2050年ネット・ゼロの実現に向けて、2022年より国民の新しい豊かな暮らしにもつながる行動変容、ライフスタイル転換を強力に後押しするため、官民連携や具体的な取組（アクション）の提示などを通じて、「デコ活」を推進してきました。これまでの取組をより多くの方の日常に広げるため、「デコ活２ndステージ」へのアップデートとして、このたび新コンセプトワード「もっとらくする、脱炭素。『らくデコ活』」を設定し、より生活者の暮らしに寄り添った情報発信・取組展開を進めます。

その始動に先立ち、2026年９月28日（月）に「デコ活２ndステージ」発表会を開催しました。当日は、畦元環境副大臣からのご挨拶に始まり、公益社団法人日本プロサッカーリーグ（以下「Ｊリーグ」）サステナビリティ領域担当役員の辻井　隆行さん、並びに鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホック、横浜F・マリノス、ガンバ大阪、アビスパ福岡、ベガルタ仙台の６クラブの代表者に加え、ハロー！プロジェクトの7つのグループから1名ずつが参画し結成された、脱炭素を応援する企画ユニット「DECA!BEAT（デカビート）」（以下「DECA!BEAT」）をゲストに迎え、新コンセプトワード「らくデコ活」の設定背景について紹介するとともに、「衣類」と「住宅（断熱）」をテーマとしたタイアップ施策を発表しました。



「デコ活２ndステージ」に向けた新コンセプトワード「らくデコ活」を発表



まず、畦元環境副大臣が登壇し、「『デコ活』を新たな形で推進し、脱炭素化に向けた取組を一層促進できることを喜ばしく思う』と挨拶。その後、デコ活の２ndステージに向けた新コンセプトワード「もっとらくする、脱炭素。『らくデコ活』」を掲げることを発表し、「『らくデコ活』を通じて、それぞれの暮らしがらくに、楽しくなるよう取り組んでいただきたい」と国民一人ひとりへの行動変容への期待を示しました。



続いて、環境省　地球環境局　地球温暖化対策課　脱炭素ライフスタイル推進室長　細貝　拓也より、「デコ活」のこれまでの取組と、「デコ活２ndステージ」に向けた新コンセプトワード「らくデコ活」の設定背景について説明しました。

細貝室長は、2050年ネット・ゼロの実現に向け、2022年より『デコ活』を推進してきたことを紹介。この間、官民連携協議会には、4,000を超える企業・団体等が参画し、国民の行動変容やライフスタイル転換につながる様々なプロジェクトとして、衣類回収やアップサイクル、断熱・省エネリフォームなどの取組事例を挙げながら、着実に取組の輪が広がっていることを説明しました。

その上で、「『デコ活』の取組をより多くの方の日常に広げるため、『デコ活２ndステージ』へのアップデートとして、新たなコンセプトワード『らくデコ活』を設定する」と狙いに言及。各種調査から見えてきた生活者の本音として、「我慢しない」「めんどうでない」「たのしい」が行動を後押しする重要な価値であると説明するとともに、生活者の意識を「環境のために我慢する」のではなく、「らくで、たのしいから行動する」へと捉え方を転換し、一人ひとりの暮らしや関心ごと、価値観に寄り添った情報発信を進めていく考えを示しました。



新コンセプトワードの設定背景を説明した後、令和８年度における重点施策についても発表しました。今年度は「衣類」と「住宅（断熱）」を重点テーマに掲げ、生活者の暮らしに身近なテーマを切り口として、「自分ごと」として捉えられるきっかけをつくり、より多くの方の行動を後押ししていく方針を紹介しました。

「衣類」をテーマとした施策では、環境省とＪリーグの連携協定に基づく取組として、クラブ対抗型イベント「環境省×Ｊリーグ『服のらくデコ活　クラブ対抗衣類回収バトル』」の実施を発表。鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホック、横浜Ｆ・マリノス、ガンバ大阪、アビスパ福岡、ベガルタ仙台の６クラブが参加し、好きなクラブを応援しながら３Ｒのうち「衣類のリユース・リサイクル」に参加できる機会を創出する施策であると説明しました。

また、「住宅（断熱）」をテーマとした施策では、ハロー！プロジェクトの７つのグループから１名ずつが参画し結成された、脱炭素を応援する企画ユニット「DECA!BEAT（デカビート）」に、本施策の「断熱ナビゲーター」に就任いただくことを発表。今後、断熱に関するデコ活アクション（以下「断熱アクション」）に関する施策を実施していく方針を紹介しました。

環境省×Ｊリーグ「服のらくデコ活　クラブ対抗衣類回収バトル」が10月よりスタート

環境省による説明に続き、「衣類」領域におけるタイアップパートナーとして、Ｊリーグ　サステナビリティ領域担当役員の辻井　隆行さんと、本施策に参加する６クラブの代表者が登壇しました。

辻井さんは、Ｊリーグが2021年に環境省と連携協定を締結し、気候変動対策に取り組んできた経緯を紹介。「服のらくデコ活　クラブ対抗衣類回収バトル」の実施にあたり、Ｊリーグから各クラブへ参加を呼びかけ、今回の６クラブとの連携が実現したことを説明しました。
また、「気候変動への対応は個人の行動だけでなく、社会全体の仕組みを変えていくことも重要。そのためには、多くの人が共感し、後押しすることが必要だ」と語り、年間延べ1,350万人のファン・サポーターが来場するＪリーグの発信力に言及。さらに、「将来の子どもたちがサッカーを楽しめる環境を守るためにも、気候変動と向き合っていかなければならない。今回の取組を通じて、多くのファン・サポーターの皆さまに参加いただき、気候変動やサッカーができる環境について改めて考えるきっかけになれば嬉しい」と、本プロジェクトへの期待を語りました。

続いて、本施策に参加する６クラブの代表者が登壇し、本取組への意気込みを語るとともに、衣類回収体験を実施しました。登壇者からは、「誰もが参加できる身近なアクションとして、地域やファン・サポーター、パートナー企業とともに活動を盛り上げたい」といった声が寄せられたほか、「未来の世代がサッカーを楽しめる環境を守るべく、試合で勝利を目指すのと同じ熱量で、衣類回収バトルでもタイトルを目指したい」といった、クラブ対抗企画ならではの力強い意気込みも語られ、衣類回収目標の達成に向けてサポーターへ協力を呼びかけました。





DECA!BEAT、“断熱ナビゲーター”に就任「“エコなビート”を届けていきたい！」

発表会の最後には、「住宅（断熱）」領域におけるタイアップパートナーとして、DECA!BEATを代表して、米村姫良々さん、江端　妃咲さん、豫風　瑠乃さん、弓桁　朱琴さんの4名が登壇し、「お部屋のらくデコ活」施策における「断熱ナビゲーター」への就任を受けた意気込みを語りました。

DECA!BEATリーダーの米村さんは、「このたび『断熱ナビゲーター』に就任させていただき、とてもうれしく思っています。これからも“エコなビート”も届けながら、脱炭素アクションの魅力を一人でも多くの方に伝え、『これならできそう！』と思っていただけるきっかけをお届けできたらうれしいです」とコメント。「断熱ナビゲーター」として、多くの方々に断熱の大切さや魅力、身近なアクションを伝えていきたいとの意欲を示しました。





続いて行われた「お部屋のらくデコ活」をテーマにしたトークセッションでは、まずメンバーそれぞれが「部屋の夏・冬の快適さ」を100点満点で採点しながら、「窓際は寒さを感じることがある」「冷暖房によるのどの乾燥が気になる」といった、自宅で実際に感じている暑さ・寒さの悩みや、アイドルならではの悩みを明かしました。また、遮光カーテンや冷感素材の布団、遮光シートを活用するなど、普段から実践している「らくデコ活」について紹介。

トークセッション後半では、メンバー同士のお互いの暮らしぶりにも話が及び、「４人の中で、お部屋でのらくデコ活を一番上手に取り入れそうなのは誰？一緒に住むなら誰を選ぶ？」というMCからの質問に、それぞれが回答。その中で、江端さんは、豫風さんを挙げ、「片付けが得意なイメージはあまりない」と笑いを誘いながらも、「日々の生活で無駄遣いをしているイメージがなく、例えばご飯も残さないので、一緒に住んでみたい」とコメント。一方、豫風さんは江端さんを選び、「いつも不思議な方法でいろいろなことをしているので、便利なだけでなく、おしゃれに取り入れてくれそう」とコメントし、メンバーそれぞれの個性や普段の関係性が垣間見える、和やかなトークで会場を盛り上げました。

また、内窓の設置や断熱窓へのリフォーム、国の補助制度が紹介されると、「もっと大がかりなイメージだった」「補助制度があること自体知らなかった」と驚きの声も。断熱を身近な工夫や制度によって快適な暮らしにつなげられることを知り、「らくで、たのしいから行動する」という「らくデコ活」への理解を深めました。

最後に、メンバーから今後の活動への意気込みも寄せられ、弓桁さんは「らくデコ活を通じて心もお部屋もギラギラにしていきたい」、豫風さんは「まずはお部屋を片付けて、らくデコ活できる床を目指します、がんばルノー！」、江端さんは「快適なお部屋を目指したい」、米村さんは「無理なく楽しみながら実践したい」と、それぞれの言葉でコメントしました。





デコ活
くらしの中のエコろがけ

＜登壇者情報＞

■環境副大臣　畦元　将吾



昭和33年広島県広島市生まれ。診療放射線技師として病院勤務や医療機器関連企業での業務に従事した後、医療ソフトウェア開発企業を創業。2019年に衆議院議員に初当選。厚生労働大臣政務官、自民党副幹事長、衆議院環境委員会理事などを歴任し、令和８年９月に環境副大臣に就任。

■環境省地球環境局　地球温暖化対策課

脱炭素ライフスタイル推進室長　細貝　拓也



平成21年4月、環境省入省。地球環境局総務課、北海道地方環境事務所、総合環境政策局環境経済課、内閣官房副長官補室、環境大臣政務官秘書官、環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室、原子力規制庁、京都市出向などを経て令和８年８月より現職。

■日本プロサッカーリーグ　サステナビリティ領域担当役員　辻井　隆行さん



アメリカのアウトドアアパレル企業パタゴニアの日本支社長を務め、社会/環境課題の解決を目指す活動などを推進。2019年11月に同社を退職。一般社団法人や企業の戦略コンサルなどを務めた後、大学サッカー部時代の仲間の紹介を受けてＪリーグの社外理事に就任。2023年1月に執行役員となり、サステナビリティ領域の取り組みを推進している。

■DECA!BEAT（デカビート）



ハロー！プロジェクトの7つのグループから1名ずつが参画し結成された、脱炭素を応援する企画ユニット。メンバーは、米村　姫良々さん（OCHA　NORMA）、岡村　美波さん（BEYOOOOONDS）、江端　妃咲さん（Juice=Juice）、豫風　瑠乃さん（つばきファクトリー）、後藤　花さん（アンジュルム）、弓桁　朱琴さん（モーニング娘。'26）、上村　麗菜さん（ロージークロニクル）

■ Ｊリーグ各クラブ代表者

・鹿島アントラーズ　取締役　濱口　昌紀さん

・水戸ホーリーホック　サステナビリティ部　ディレクター　木村　孝さん

・横浜 F・マリノス　ホームタウン/ふれあい部 部長　福島　潔さん

・ガンバ大阪　事業本部　パートナー推進部　担当部長　松岡　透さん

・アビスパ福岡　事業推進部　社会連携担当　吉田　尚輝さん

・ベガルタ仙台　経営企画部長 兼 ファシリティマネジメント部長　磯田　敦さん